



写真② ナスの青枯病
(引用：農業電子図書館)

●青枯病(写真②)
茎葉の一部が水分を失って、青いましおれます。病気の進展は早く、4〜5日で枯れてしまいます。

青枯病などの土壌病害が発生した畑で再度ナスを栽培する場合は、耐病性のある台木に接いだ接木苗を定植しましょう。

害虫はアブラムシ、ダニ類、ミナミキイロアザミウマなどに注意し、早期に発見して薬剤を散布しましょう。病気ではうどんこ病、菌核病、灰色かび病、すすかび病などに注意します(図①参照)。特に、土壌病害の青枯病や半身萎凋病が発生した場合は治療薬がないので、抜き取って廃棄してください。

病害虫対策



写真③ ナスの半身萎凋病

●半身萎凋病(写真③)
下葉から黄化・褐変して枯れていきます。発生初期は株の片側だけに発生しますが、のちに全体へ広がります。病気の進展は遅いです。

ホルモン処理について

●ホルモン処理について
受粉処理は、トマトトーンを50倍で希釈して(水1Lにトマトトーン1本。全シーズン同じ)、これを花柱やがくに吹きかけます。

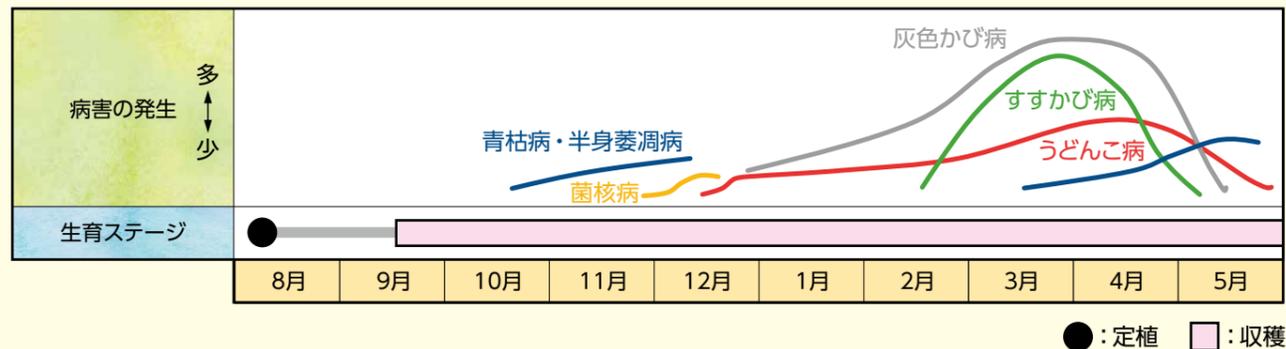
処理時期は厳寒期では開花当日から開花後5日まで、温暖期では開花当日から開花後3日までに処理をします。処理が早すぎると曲がり果が多くなり、花抜けも悪くなります。逆に処理時期が遅れると落花、石ナス果、つやなし果が発生しやすい傾向にあります。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室
(本所 営農部内)
☎0120-972-860

図① 病気発生時期の目安



多く発生し、生育の適温は20〜25℃です。体長は1〜2ミリの程度で、高温や乾燥状態が続くと多発します。
ネギアザミウマは葉の表面をなめたり、吸汁して葉を傷つけたりするので、被害にあったネギの葉は白い食害痕が見られるようになります。商品価値が著しく低下します。ネギの葉が折れた場所等、農薬がかかりにくい場所に入り込むこともあります。
防除を行う際は、必ず違う系統の農薬を使ったローテーション散布を行ってください(表②参照)。同時期に発生するハモグリバエの防除を同時に行うこともお勧めです。

表① ネギの黒腐菌核病と白絹病に登録のある薬剤一覧

薬剤名	希釈倍率 使用量	使用時期	使用回数	対象病害		特性
				黒腐菌核病	白絹病	
パレード20フロアブル	2000倍 ※1箱当たり0.5L灌注	収穫前日まで 育苗期後半〜定植当日	合計3回以内 (灌注は1回以内)	●	●	予防
カナメフロアブル	4000倍	収穫前日まで	4回以内	●	●	予防
メジャーフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	●	●	予防・治療
セイビアーフロアブル	1000倍	収穫前日まで	3回以内	●	●	予防
モンガリット粒剤	10a当たり4〜6kg	収穫14日前まで	3回以内	●	●	予防・治療

※パレード20フロアブルの灌注は白絹病の登録はありません。

表② ネギのネギアザミウマに登録のある薬剤一覧

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期	使用回数
アグロスリン乳剤	合成ピレスロイド系	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
アフーム乳剤	マクロライド系	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
グレーシア乳剤	その他	2000〜3000倍	収穫7日前まで	2回以内
ディアナSC	スピノシン系	2500〜5000倍	収穫前日まで	2回以内
ファインセーフフロアブル	その他	1000〜2000倍	収穫3日前まで	2回以内
ベネビアOD	ジアミド系	2000倍	収穫前日まで	3回以内



黒腐菌核病について

黒腐菌核病は、一度発生すると年々被害が拡大していく難防除の土壌病害です。発育温度は15〜20℃で、気温が10℃前後の時にまん延します。高温に弱く、25℃を超えると活動を停止します。発生は年明けが比較的多いですが、年内でも発生する可能性があります。注意が必要です。

●黒腐菌核病について
黒腐菌核病は、一度発生すると年々被害が拡大していく難防除の土壌病害です。発育温度は15〜20℃で、気温が10℃前後の時にまん延します。高温に弱く、25℃を超えると活動を停止します。発生は年明けが比較的多いですが、年内でも発生する可能性があります。注意が必要です。
防除のポイントは、気温が下がってくる9月下旬と10月下旬に黒腐菌核病に登録がある薬剤を散布することです。散布液を10㎡当たり300Lと使用量の最大量を散布することで薬剤がしっかりと株元に染み渡り、効果を最大限に引き出すことができます。できる限り、ゆっくりと丁寧に散布しましょう(表①参照)。また、病気が発生した圃場では残さをすきこまないようにする、圃場の数に余裕がある場合は連作しないようにする等の対策を講じましょう。発生が懸念される圃場で作付けする際は、効果の持続期間が長い、パレード20フロアブルの苗灌注処理も

白絹病について

●白絹病について
病原菌は土壌中に生息しているカビで、地際部に白色の菌糸が発生した後に、淡褐色の菌核が形成されます(写真①)。発育温度は13〜38℃で、適温は32℃と高温期に発生します。乾燥状態の後に過湿状態が続くと増え、排水が悪い圃場でも多発しやすい傾向にあります。
近年、夏場の高温の影響を受け、発生が多くなっています。発病した株を発見した場合は速やかに圃場外へ運び、処分してください。土寄せ前または土寄せ時に、粒剤や散布剤の農薬を使って防除を行いましょ。



写真① ネギの白絹病

ネギアザミウマについて

ネギアザミウマは7〜10月に